

## 第4回外洋統括委員会議事録

日時：平成20年11月15日（土） 13：00～17：10

場所：岸記念体育会館内1階103会議室

出席：（敬称略、順不同）

児玉萬平、小林昇、浅野英武、外山昌一、坂谷定生、鈴木保夫、渡辺康夫、平賀威、浪川宏、林賢之輔、鈴木一行、長谷川淳、大村雅一、吉田豊、足立利男、高木伸学  
以上16名

欠席：並木茂士、古川保夫、豊伸吾、秋山雄治、猪上忠彦、八木達郎 以上6名

オブザーバー：

川久保史朗（外洋三崎会長）、長谷川孝男（外洋三浦事務局長）、稲葉文則（外洋湘南会長）、平井昭光（外洋湘南常任委員）、大坪明（外洋湘南常任委員）、河内道夫（外洋東海事務局長）、守本孝造（外洋近北事務局長）、宇都光伸（外洋南九州会長）、富川則之（IRC委員会委員）、田口裕介（日本IRCオーナーズ協会（JIOA）事務局）、豊崎謙（JSAF広報委員会）、寺澤寿一（JSAF本部事務局） 以上12名

浅野幹事長から開会が宣言され、議長を児玉副委員長にお願いしたい旨の発言があり、児玉副委員長が議長を行うこととなった。本会議の議事録署名人として、議長指名により、渡辺康夫、平賀威の両委員が任命された。

冒頭、浅野幹事長から出席者への謝意と、前回から引き続き外洋統括会議は公開で、各外洋加盟団体会長ならびに事務局長にも出席をいただいているとの発言があった。その後、児玉副委員長から発声があり審議に入った。

### 審議検討事項

#### 議案1) ORCAN 交渉経過報告

児玉副委員長から資料と契約案文をもとにORCレーティング証書発行業務をORCANに業務委託する契約の経緯報告があり、その結果JSAF案文をもとにJSAF-ORCAN間で業務委託契約書が締結されることになったと報告された。

また契約文案作成の間、ORC会長フィンチ氏からのJSAFへの直接のコンタクトがあったが、本件契約は日本国内における計測証書発行に関するRRSとJSAF連盟規程にORCANによる証書発行がルールに抵触する状態を回避するための契約であることがFinzi氏に理解されたため、ORCは関与せずJSAF-ORCANの二者契約となった。この契約の締結によって、来年度のJSAF公式レーティングは、IRCレーティングとORCレーティングを並行して採用されるとの説明があった。

林委員から、来年度からORCANから委員が出て外洋計測委員会組織（ORC小委員会）

に入るが、業務費用については ORCAN 負担であることの確認があった。

議長から本件経緯の了承を求めたところ、特に異議なく承認された。

## 議案 2) 艇登録制度見直し、加盟団体事務局長会議を受けての報告と意見交換

長谷川委員から資料に基づき、外洋艇登録制度に係る意見交換会について報告があった。

外洋艇登録の問題点は、地域の事情などにより適切な立場にある外洋加盟団体がカバーできない場合がある。ヨットレースを行なう方のみが、セイルナンバーが必要とされている。諸手続き（艇登録・JSAF 会員登録・レーティング・安全）の煩雑さがある。

J/24 等ワンデザインクラスの JSAF 加盟協会艇の扱いについて不明確であるなどが挙げられる。

県連または特別加盟団体での問題点は、外洋艇登録の書式等の記入や管理方法が分からない場合がある。専用窓口がないなどが挙げられる。

外洋加盟団体での問題点は、事務局員が交代する際の引継等の問題、事務局が常駐で電話対応ができるのか。外洋加盟団体が一般のセーリングクルーザーに艇登録の勧誘をしているか。加盟団体登録での価格、一般のセーリングクルーザーが加盟団体から加入するメリットはあるのか。管理エリアでの実艇数の把握はできているのかなどが挙げられる。

JSAF 事務局での問題点は、過去の艇登録書類のデータベース入力にかかる時間の問題。

各種申込書等を一枚に統一することにより申込手続きが簡易になる。全ての加盟団体が同じ管理表を使用することで、JSAF 事務局管理が簡易になる。過去に発行していた艇登録証の復活などが挙げられる。

以上から、今回のような事務局会議を年 1 回程度開催する。その代表者を外洋統括メンバーにする。特別加盟団体・県連からの艇登録申込に関しては、外洋部会の設立ならびに担当事務局の設置、レース・計測・安全の担当責任者の任命することを条件にする。

艇登録リストの共有化（データ管理表の統一）を図るとの発言があった。

宇都外洋南九州会長から、南九州でのセイルナンバー登録はレース参加艇に限定されている。加盟団体の責任として艇登録増加を図ることは協力するので、JSAF 本部の指針を示していただきたいとの発言があった。

守本外洋近北事務局長から、すべての外洋艇にセイルナンバーは必要である。加盟団体としてはオーナー会員の費用は確保したいとの発言があった。

長谷川委員から、艇登録制度は単体の問題ではなく、JSAF 登録全体の問題になるとの発言があった。

児玉副委員長から、安全管理データベースを公的に共有することは、JSAF 本部で外洋艇を把握することであり、そのためには外洋艇オーナー会（仮称）とのコミュニケーションが必要である。引き続き、長谷川氏中心に加盟団体にアンケートを実施し、メリット・デ

メリットの意見集約をして、登録を積極的に推進している外洋東海事務局長の河内氏の協力を得ながら答申案を提出していただきたいとの要請があった。

### 議案3) 2009 各加盟団体レース日程調整とレースグレード適用

児玉副委員長から、2009 各加盟団体レース日程調整とレースグレード適用について提案があり、特に異議無く実施に移すことになった。

については各加盟団体ごとに2009 年度レーススケジュールを早く公表していただき、併せてグレード登録を適用していきたいとの依頼があった。

他、河内外洋東海事務局長から、JSAF レース委員会委員と外洋レース委員会委員の区別の質問があったが、小林外洋レース委員長から、現在、両委員資格は別のものだが、次年度以降は JSAF レース委員と外洋レース委員のマージを図りたいとの発言があった。

### 議案4) 2009 外洋レース規則の採択と運用方法について

大村ルール委員長から資料に基づき、「JSAF外洋レース規則2009」および適用の手引き最終案について提案があった。趣旨は、JSAF外洋レース規則2009（以下本規則という）は、外洋艇によるレース全般を対象とするものではなく、主として主催者やレース委員会が直接管理できない外洋や沿岸水域において行われるレースを対象に「セーリング競技規則（RRS）」を補完するものである。本規則は安全を重視し、外洋レース参加艇自身による事故の回避のための努力と責任を広く参加艇に呼びかけ、また主催者と参加艇の関係を明らかにし、万が一のレース中の事故に際して、レース主催者、レース運営者を、少なくとも刑事訴訟や海難審判上の訴追などの圧力を軽減・回避することを意図するものである。適用は、本規則は帆走指示書の適用規則に載せることで効力を発する。本規則の各条項は、必要に応じて帆走指示書で変更または削除することができる。付則に「外洋レース運営ガイド」を作成したとの発言があった。また児玉副委員長からは の条文は主催者保険適用の条件上も要求されている項目であるとの補足説明があった。

鈴木一行委員から、外洋レースオフィサー育成のためにも、外洋レースにかかわる帆走指示書のスタンダードを作成するべきであるとの発言があった。

大村ルール委員長から、新RRSは年内に翻訳版が発行される。大きな変更は マーク2艇身が3艇身ゾーンに変更、エンジンの使用である。また、A級ジャッジ更新講習会は来年1～3月に、B級ジャッジ更新講習会は各加盟団体で随時開催される予定であるとの発言があった。

児玉副委員長から、（外洋艇レガッタ向けの）帆走指示書のスタンダード化は（外洋）レース委員会では整備を早急にしていただきたい。吉田氏を中心に当該委員会において、作成していただきたいとの要請があり、吉田委員から、JSAFレース委員会と調整を図り、当該委員会と作成するとの回答があった。

浪川委員から、レースオフィサーの年齢制限が外洋レースオフィサー育成に弊害である。

また、付則「外洋レース運営ガイド」第3項の安全検査の文言はSR確認作業とするほうがいいとの発言があった。

平賀委員（JSAF 保険担当）からは、本ルールを来年度レースから適用していきたいとの発言があった。

児玉副委員長から、1月のJSAF理事会へ審議事項として承認を受けるとの発言があった。

河内外洋東海事務局長から、JSAF ホームページに開示も必要であるとの発言があった。

小林副委員長から、12月開催のJSAFレース委員会で議題とするとの発言があった。

田口日本IRCオーナーズ協会事務局からは過去の外洋統括委員会での議論が反映されているとは思えないとの発言があった。

本件は特に異議無く了承された。

#### **議案5) 2009 外洋統括委員会新組織策定委員会の立ち上げについて**

浅野幹事長からその理由および趣旨説明があり、引き続き児玉副委員長から資料に基づき、2009年度JSAF外洋艇委員会（仮称）組織案について検討依頼があった。ポイントとしては、各団体との連携、外洋艇登録の推進、競技推進・サービスの機能別委員会の充実を図る組織体の実現としている。

鈴木一行委員から、外洋統括組織としてのグランドデザインがまず必要である。それには、本年12月からの公益財団制度を見据えた上で、JSAF理事会での外洋の位置づけが重要である。外洋統括委員会は決定機関であるのか、また、誰（メンバーなのか、オーナーなのか、組織なのか）をみて活動するかが大切であるとの発言があった。

浪川委員から、それ以前に上位組織であるJSAF自体をどのような組織にしていけるのかグランドデザイン議論がなされていない。外洋統括委員会自身がオピニオンリーダーとしての自覚を持つことができるのか。

浅野幹事長を中心に新組織策定担当委員間での検討となった。

#### **以下報告事項**

##### **報告1) 2009 ジャパンカップ・パールレース準備状況報告**

外山関東水域理事から、2009ジャパンカップ準備状況報告があった。児玉副委員長からの2009ジャパンカップ開催要項（案）を受けて、本会議に先立ち、実行委員会を立ち上げるための会議を開催した。開催日を9月、開催地をシーボニア、共同主催をJSAF外洋三浦ならびにJSAF外洋三崎、協力をJSAF外洋東京湾ならびにJSAF外洋湘南とした。今後は、実行委員会を立ち上げて、株式会社リビエラリゾートに協力依頼を申請する。使用レーティングは議案1のORC公認化を受けてORC-IならびにIRCエンドストとするが、ジャパンカップ開催規程に沿って決定する。また、ジャパンカップウィークとして、ORCCクラスやIRCノーマルで参加できる併催（オープン）レースを開催するとの発言があった。

坂谷東海水域理事から、2009 パールレース状況報告があった。基本的には本年同様の運営として 50 回記念大会とするが、共同主催の外洋湘南と相談するとの発言があった。

浅野幹事長からセーラーの間では鳥羽復帰を願う声もあるがとの質問をきっかけに川久保外洋三崎会長他数名から、五ヶ所湾では参加日程や宿泊などに負担がかかり、できることならスタートを鳥羽（ヨセマル海上集合）に戻せないかとの提案があった。

坂谷理事から、鳥羽市観光協会との関係もあるが、泊地の問題が一番で艇の管理はできない。「鳥羽」というレース名のブランドも理解できるし、またラグーナマリーナ開催での可能性も含めて検討したいとの発言があった。

河内外洋東海事務局長から資料に基づき、2008 ジャパンカップ参加艇及び運営側アンケートの集約結果について報告があった。特筆は運営側アンケートで、表彰式に運営スタッフの紹介が好評であったことである。また、次回以降のジャパンカップに的確者を派遣し、運営者としての勉強と経験を積ませることが必要であるとの発言があった。

吉田委員から、9 月開催の外洋統括委員会で来年使用レーティングは IRC で承認されたはずであるとの質問があった。

児玉副委員長から、9 月時点では ORC の扱いが決まっていなかったが、ジャパンカップ開催規程（成立するクラスは参加艇 10 艇以上）によって判断するとの回答があった。

## 報告 2 ) ISAF / IRC コンファレンス報告

小林副委員長から、ISAF / ORC 年次総会について報告があった。本年 11 月 8 ~ 14 日まで、ISAF オフショアコミティ・ISAF-SR サブコミティ・ISAF ローカルハンディキャップコミティならびに ORC コンgress にオブザーバーとして出席した。詳細なりポートは後日報告するが、要点は ISAF 会長・副会長の改選があった（ORC はフィンチ氏が継続）。ORC・IRC ハンディキャップシステムにおいて安全基準を大会独自のルールにできるか検討された。これは、ボルボオーシャンレースなどマスコミ対応によるものである。サブミッションでの改定は、ABS や ISO 基準も記載するように、ISAF-SR を判りやすく検討する。ORC-I、ORCC 証書発行状況は約 7,000 隻で前年並みだが減少は否めない。

鈴木一行 IRC 小委員長から資料に基づき、2008 年 IRC コンgress 出席報告があった。10 月 18 日、2008 年度の IRC コンgress がロンドンで開催され、鈴木一行委員長と角晴彦 IRC 委員が出席した。詳細は報告書を拝見いただくことにして、要点は、2008 取得艇は約 8,000 艇である。日本は世界で 10 番目の取得数となった。日本の技術レベルは高く評価されている。日本からのサブミッションは許可されている。また、アジアでの IRC 発展について検討するとの発言があった。

### 報告3) 新SRについて

浪川安全委員長から資料に基づき、外洋安全委員会報告があった。2009年4月から新ISAF-SRが施行される。JSAF-SR翻訳は完成していないが、2009年1月に安全委員会・全国安全講習会(A講習会)を実施する。SR登録方法および参照方法に問題がある。SRに対する認識をレース艇以外にも普及させる。現在のSR登状況について発言があった。

### 報告4) 保険委員会報告

平賀委員長から資料に基づき、保険委員会報告があった。

外洋主催者賠償責任保険の保険料は2005年から連盟財政難から保険料をレース実績に基づいて各加盟団体にシェアしている。そのため保険更新のたびに辞退する団体が多くなっている。この制度のままでいくか、他の方法がないか検討して2009年保険に反映させたいとの提案があった。

次に、ヨットポーターボート保険(YMB)について、保険業界ではヨット保険は受けられない状況になってきている。そこで、株式会社ピー・アール・エフの池田栄宏氏から新ヨット保険の提案があるとし、そのタイミングで入室を促された池田氏から資料に基づき、新セイル・オン保険の説明がされた。

しかしながら現状のJSAFでは直接艇のオーナーと繋がっていなく、加盟団体経由であるのでJSAF団体保険が組めない、可能にするにはJSAF加盟艇オーナー団体が組織されていれば20%以上の割引が可能な保険が設計できる、という内容であった。

児玉副委員長から、新保険制度で要求される団体を8月及び9月の艇登録制度議論で検討されたオーナー会の設立を新保険制度と関連させて実現することが効果的である。艇登録推進と保険制度の整合性を確認しながらすすめていきたいとの提案があった。

足立委員から、オーナー会と保険制度は別で慎重に考えるべきであるとの発言があった。

平賀委員から、新セイル・オン保険の基本契約はオーナー会と実績ベースで契約することになるのか質問があった。池田氏回答は、当初予測数で契約、その後前年実績を見て適用割引率を設定する、であった。

児玉副委員長から、平賀氏、鈴木保夫氏と池田氏で内容を検討していただき、任意団体の設立も含めて、次回外洋統括委員会で報告するよう要請し快諾を得た。

### 報告5) 2009JSAF カレンダー & 2010 企画

平賀 JSAF 事業開発委員長から、2009JSAF カレンダーならびに 2010 年企画について報告があった。現在、JSAF が販売しているカレンダーは事業開発委員会が扱いはしているが独自の企画ではない、著作権・写真選択・潮汐表の見づらさ、等々の課題があるので、2010 年から卓上式カレンダーを考慮している。現在試作中である、との報告があった。

浅野幹事長から、カレンダー製作には種々な意見があるので、幹事長として協力整理す

るとの発言があった。

#### **報告 6 ) 総務省海上共通通信システム検討会進捗報告**

児玉副委員長から資料に基づき、総務省海上共通通信システム検討会 10 月開催の検討会・親会での「とりまとめ基本方針」の説明があった。早急な普及を最優先させること、無線従事者を 25w まで第 2 級海上特殊無線を拡大すること、講習会は運用中心で短くすること、技術適合基準は FCC・国際基準にすることなどである。

ワーキンググループ(WG)委員である足立通信委員長は、総務省海上共通通信システム検討会の活動は、本年 10 回開催、関係団体で意見の反映をさせた答申を年内にまとめて、来年 4 月から実施する方針であるとし、制度ワーキンググループ委員の渡辺法制委員長からは、特に従事者免許、免許手続きなどについて検討している、検討内容は、現在 3 年に 1 回の定期検査を 5 年にできないか、また JCI 検査と同時に実施できないかなどであるとの発言があった。

児玉副委員長から早い実現を願っているとの発言があった。

#### **各委員会報告**

##### **報告 1 ) 財務・会計委員会報告**

鈴木保夫財務・会計委員長から資料に基づき、平成 20 年度 9 月末外洋統括委員会収支について報告があった。収入合計は 552 万円、支出は 383 万円であるとの発言があった。

鈴木一行委員から、本年度 IRC 小委員会収支は実質ゼロベースとの発言があった。

浪川委員から、特別規程収入の記載があるが、予算要求は可能かとの質問があった。

鈴木保夫委員長から、安全委員会またはその他委員会経費は、外洋統括委員会支出で 50 万計上しているとの回答があった。

##### **報告 2 ) 法制委員会報告**

渡辺法制委員長から、法制委員会現状報告があった。日本小型船舶検査(JCI)との会合を定期的で開催している。平成 22 年定期検査から中間検査が廃止され、本検査のみとなり、4 年 1 回に変更となる。信号紅煙(火薬類)やライフラフト点検・検査が今後検討されるとの発言があった。

##### **報告 4 ) 計測・技術・ハンディキャップ委員会報告**

林委員長から、計測・技術・ハンディキャップ委員会現状報告があった。JSAF 簡易ハンディキャップ(PHRF)を予算もないことから凍結している。2009 年度から ORC 小委員会の運営を考慮しなければならない。ISO 関係会議に角さんを輩出しているとの発言があった。

#### **報告 5) IRC 小委員会報告**

鈴木一行委員長から資料に基づき、IRC 小委員会報告があった。本年度 IRC レーティング取得件数は、約 150 艇の証書発行を予定している。また、ジャパンカップやパールレースなど各外洋加盟団体レースに採用されてきているので、2009 年度は早いタイミングで IRC クラスレースの発表をしたい。さらに 2009 年活動ポイントは、IRC 証書発行業務のスムーズな運用、楽しいレースの企画運用、IRC レーティングの 2 年間の反省と技術とデータの蓄積および解析との発言があった。

#### **報告 6) セイルメジャラー部会報告**

長谷川委員から資料に基づき、セイルメジャラー部会報告があった。セイルメジャラーの ERS 登録承認の対応が必要である。IRC は登録済みであるが、ORC の対応をしなければならない。役員の変更で若返りを図るとの発言があった。

#### **報告 7) 通信委員会報告**

足立委員長から、通信委員会現状報告があった。総務省海上共同通信システム検討会の経過報告で説明済である。引き続き、JSAF ホームページに経過報告をアップすると発言があった。

#### **特別報告) 国際委員会報告**

鈴木一行委員長から資料に基づき、面談の機会があった堀江謙一氏 (JSAF 会員) から「ショートハンド外洋航海者における問題点」について、国際 VHF 開局の問題点をはじめとする数々の意見をいただいた旨の報告があった。

最後に浅野幹事長、兎玉副委員長から出席者への謝辞及び今後の協力方の要請挨拶があり、所定の議事をすべて消化。17時10分閉会した。

以上

議事録署名人：平賀威 渡辺康夫